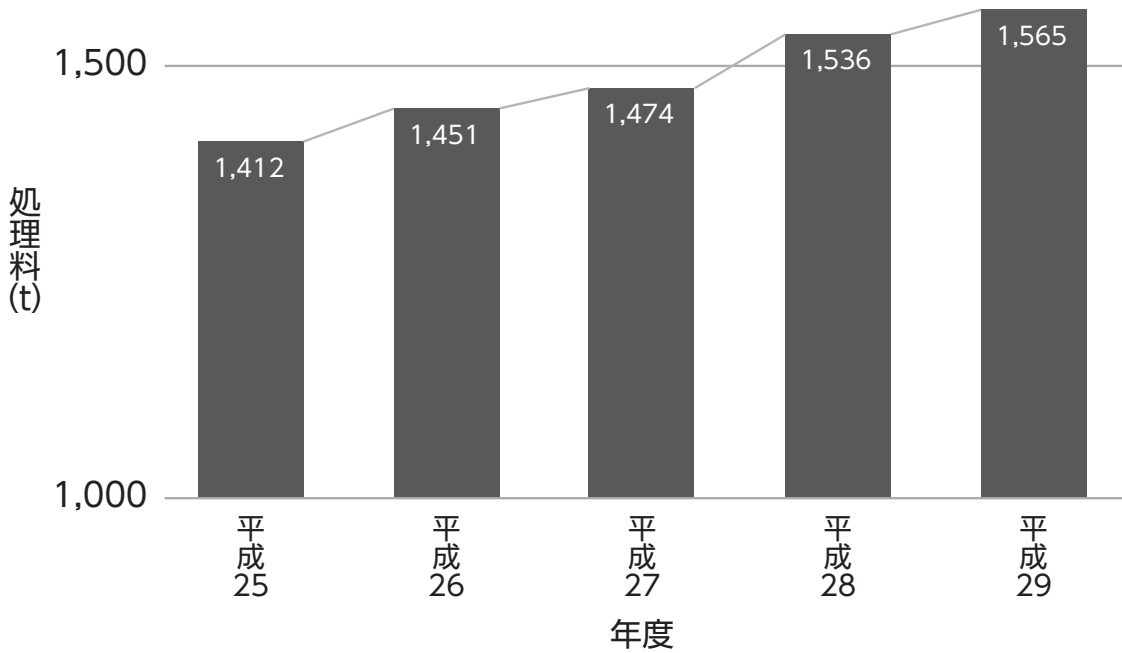


図1 可燃ごみ処理量の推移



平成28年度の長野県の1人・1日当たりのごみの排出量は822gで、平成26・27年度に続き、3年連続で全国最少となりました(全国平均は925g/人・日)。

ごみの減量化に関し、最も先進的である長野県にあって、町の平成28年度のごみの排出量は518g/人・日、県内77市町村中18位と高い水準にあり、町民一人ひとりが高い環境意識を持った町であるといえます。

しかしながら、町全体の可燃ごみの排出量は図1のグラフのとおり年々増加しており、人口の増加を鑑みても、一層ごみの減量化に取り組む必要がある状況です。

そもそもなぜごみの減量化に取り組むのでしょうか?なぜごみが増えることはいけないことなのでしょう?

ごみの増加は様々な悪影響をもたらしますが、今回はその中でも身近な「お金」という面から、ごみの増加がもたらす影響を考えてみたいと思います。

「分別収集」の効用

ごみ減量化施策の代表的なものが「分別収集」です。

次ページの図2は現在の町のごみ分別ごとに、処理の流れをまとめたものです。

最終的に「再商品化」や「資源化」する処理を多くし、「埋め立て」による最終処分を減らしています。

「再商品化」や「資源化」処理は「埋め立て」を伴う処理に比べ、安価な費用で処理が可能です。

表1は現在の町の分別・処理体制の中で、実際にかかった費用をまとめています。

資源物は有価物として処理できるため、分別することで処理費用を削減できます。

表1 現在の町のごみ処理費用(H29)

ごみ種別	処理量	処理費用
可燃ごみ	1,565t	88百万円
生ごみ	510t	14百万円
不燃ごみ	144t	12百万円
可燃性資源物	462t	(収入) 6百万円*
不燃性資源物	163t	(収入) 2百万円*
合計	2,844t	106百万円

*資源物の処理は売払収入が発生しています。

表2 分別を「可燃」と「不燃」のみにした場合の処理費用

ごみ種別	処理量	処理費用	表1におけるごみ種別
可燃ごみ	2,537t	142百万円	可燃ごみ 生ごみ 可燃性資源物
不燃ごみ	307t	18百万円	不燃ごみ 不燃性資源物
合計	2,844t	160百万円*	

*表1の合計処理費用との比較 **54百万円増**

では仮に、この分別を「可燃ごみ」と「不燃ごみ」という2つの分別のみで処理した場合、ごみ処理にかかる費用はどうなるのでしょうか。

表2は表1の「生ごみ」や「資源物」を「可燃ごみ」と「不燃ごみ」として処理した場合の費用試算です。

現在の分別・処理体制が年間5千万円以上の処理費用を削減していることが分かります。「混ぜればごみ、分ければ資源」の言葉どおり、ごみの分別は確実にごみとその処理費用を削減します。

図2 町のごみ処理の流れ

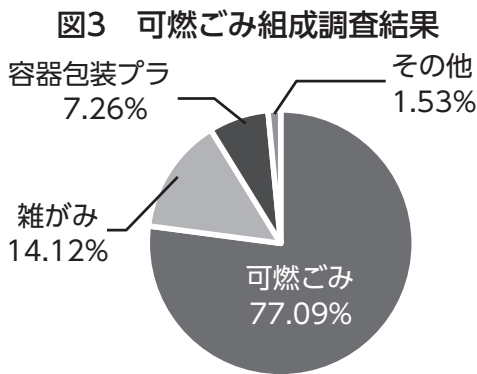
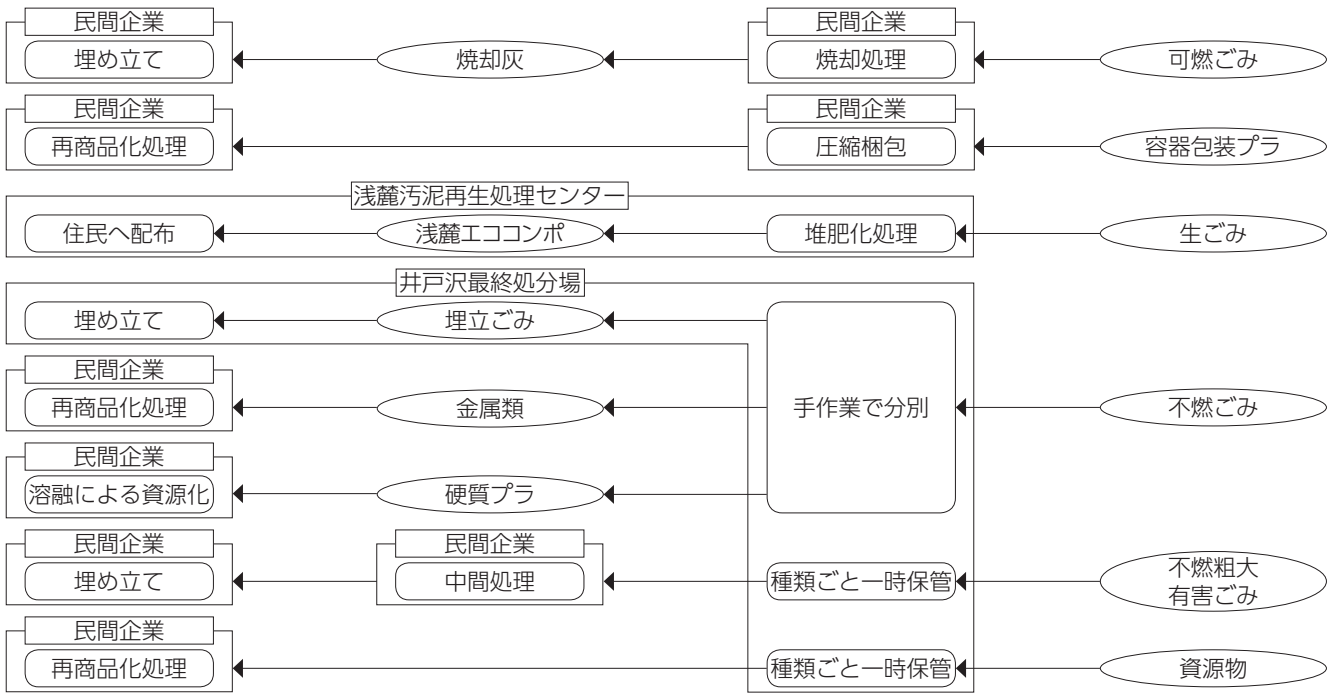


図3は本年の8月に実施した「可燃ごみ組成調査」の結果の円グラフです。この調査は収集された可燃ごみを無作為に選び、その中に混入している資源物などの割合を調べるものです。この調査の結果、可燃ごみの中には、資源物として処理できる「雑がみ」や「容器包装プラ」が約21%混入していることが分かりました。

ごみに混入する「資源」
ごみの減量化において重要な「分別」ですが、町ではすでに細かな分別にご協力いただいております。今以上の分別の細分化は難しい状況です。その中であって、いかに減量化を進めていくかがこれからの課題です。

町では混入率が高く、費用減少効果も大きい「雑がみ」の分別を促進するため、「雑がみ回収促進用紙袋」を製作し各世帯へ順次配布しています。この袋は可燃ごみに混入しやすい小さな「雑がみ」を紙袋にまとめて便利に排出する方法をご紹介しますとともに、この袋自体を「雑がみ」の排出に利用できる紙袋です。

表3 現状と適正に分別した場合の費用比較

分別状況	処理費用
現状の可燃ごみ	50百万円
適正に分別した場合	37百万円
比較	-13百万円

表3は現状の家庭系可燃ごみの処理費用と、混入している資源物が全て適正に分別された場合の処理費用との比較です。重量は23%程度の減量ですが、処理費用では1千3百万円と約26%減少します。これは混入している「雑がみ」が適正に分別できれば、有価で売却して処分できるためです。

さらなる減量化に向けて

ごみ処理費用は町民の方々の税金でまかなわれているため、ごみの処理費用が削減された分は他の行政サービスの充実につながります。

不要になったごみに時間や手間をかけることに煩わしさを感じることも多いかと思いますが、そのひとつが町での生活をより良いものにしていきます。

今回はごみの問題について身近に考えてもらうため「お金」という面からごみの影響を考えましたが、「お金」以外にも環境への負荷や、埋め立てによる国土への影響など、ごみが増えることによる悪影響は多くあります。町では今後もごみの減量化のためにできることを考えていきますが、ごみ減量化に最も大事なことは、排出者一人ひとりのごみに対する理解と意識の向上です。

「ごみが少ない住みやすい町」そんな町を目指して町全体でごみの減量化に取り組んでいきましょう。ご協力をお願いします。